

生活支援体制づくり協議体会議 開催報告書
(地域包括支援センター鴨江担当圏域レベル)

1 開催日時	令和 7年 7月 25日 (金) 9時 30分 ~ 11時 00分
2 開催場所	浜松市福祉交流センター5階 多目的室52
3 参加者	<p style="text-align: center;">委員 : 西2名、県居6名、江西4名 包括・関係機関 : 7名 市社協 : 4名 計 23名</p>
4 協議の内容	<p>1 開会</p> <p>2 令和7年度の協議体委員及び正副会長について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規 4名 (1名欠席) の委員から自己紹介 ・正副会長の紹介について <p>3 令和6年度の振り返りと今年度の方向性について</p> <p>はじめに、2/19開催「健康フェスタin鴨江」の当日アンケートの集計を基に、特筆すべき内容を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン等気軽に通える場所があるか ⇒「ある」が多数。中にはフィットネスクラブという意見もあった。 ・居場所が必要と感じるかの問いについては、「はい」が多数。今後やってほしい内容として「今日のようなイベント」「測定が良い」「自分の体を知るきっかけになった」など、好評な記述が多かった <p><意見交換・情報提供></p> <p>3つの地区混合グループに分け、下記①②について意見交換を実施。新規に立ち上がった江西・西地区のサロンの紹介、マンション集会室を活用した介護福祉なんでも相談会の実施等、皆さんに情報提供を行った</p> <p>①「健康フェスタin鴨江」開催後の各地域での反応について</p> <p style="padding-left: 20px;">グループA・参加者が楽しんでいて、自分も楽しかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こういったイベントに出てこられる人は良いが、出てこられない人が課題。出てくることができなくなるのには段階があるはずだから、今少しでも出てきている人をどう把握していくか。 ・シニアクラブや壮年会でいろいろやってくれていることが分かった。その活動を生かしたい。地区の公民館が現在建て替え中なので、それに乗じて何か

イベントをできないか

- ・周知のチラシが回覧板で回ってきてもなかなか見ない
- ・声をかけ誘ってくれる人がいると行きやすい
- ・「足」がなくて行くことができない人もいる

グループB・測定などチェックの結果で笑って話ができ、良い機会となった

- ・地域のサロンへの出前講座につながった
- ・地域住民の方がもっと参加できると良い（住民向けのPRが必要）
- ・楽しそうな雰囲気良かった

グループC・イベントに参加、「足が向く」までが問題で「行こう」と思う要因が必要

- ・地域のつながり、誘い合うことが重要⇒安心感がある
- ・サロンにも出ていない一般の方を誘い出すための手段がないだろうか
- ・近場でいつもの場所での実施であり、参加する動機になった

②活動を広げていくためのアイデア

グループA・「一緒に行こう」と声をかけてくれる人をどのように作るか。最初の一步を一緒にやってくれる人が欲しい。集いの場への移動が難しい、移動も協力者がいるとなお良い

- ・参加するとお土産（なにかの検査結果が聞けたり、チラシに抽選の参加券がついていたり）がもらえると良い。ただし継続的にお土産を出すのは大変なので、初回キャンペーンとするのはどうか。まずは来て楽しさを知ってもらいたい
- ・地域の祭りが集まるきっかけになっている。集まっている場での周知が効果的

グループB・徒歩範囲に集まれる場所があるか。

西伊場⇒集会所 60人くらい収容

元魚 ⇒集会所あり

成子 ⇒自治会長宅の隣の建物を使用、予約制だが利用しづらい

西浅田⇒町の公会堂などで定期的に食事会

南浅田⇒女性のみのサロンがあり毎年納涼祭に参加

県居地区⇒祭り関連の集まりがメイン

※イベントと併せて行えば参加する人がいるかも

西地区 ⇒大人数で集まるなら、小学校（鴨江、西）

江西地区⇒町民体育大会（再開してはどうかの意見あり2027年復活予定）

集まる場所は複数あるが、中心になる方がいない（担い手不足）

グループC・なるべく近場での実施がポイント

- ・同じ日でも数カ所で実施できると良いのでは。テーマを決めて、3地区ある

ので順番に開催していく方式はどうか

- ・高齢者は自分のためになることは関心ごととして参加してくれる傾向にある
- ・毎日町内を歩いているが、最近特に歩いている人がいない。歩いていると交流が生まれることもあるのでは。その人たちを拓げるなども良いのでは。
- ・公民館（公会堂）を身近なものにしたいと思い、出前講座なども検討したい
- ・夏祭りや盆踊りなど地域の人たちが集まる機会を活用し、交流スペースなどの設置など工夫する

※外出をすれば交流が生まれる。交流・つながりがあれば誘い合うことができる。たすけあえる、お互いの見守りにも通じる。

「健康意識の向上」は、ひいては「支えあいの向上」につながってくる

4 その他・連絡事項

①委員報酬の支払いについて…年払い、口座振込、必要書類の提出を依頼（新規委員）

②第2回会議の日程について…10月末から11月初旬を予定したい

出席が難しい曜日や日程があるか⇒月・火は除いてほしい

5 閉会 鴨江圏域生活支援体制づくり 会長 稲垣会長

5 今後の見通し・必要な対応

- ・新しい委員の方々にも健康づくりをテーマとして、集いの場の創出について前向きに検討してもらえるよう働きかける。
- ・県居地区はまずは各町でどのような集いの場があり、また集会所がどう活用されているのかを2回目以降の話し合いに役立つ情報としてまとめ提供する。
- ・会議終了後、講話や測定の出前講座を希望され紹介してほしいとの申し出があったため対応する（その集いの状況を把握）
- ・小さな単位（町ごと）での集いの場（健康講座）の実施に向けての取り組みを検討する（関係機関とも連携し、福祉交流センター近隣の町と調整を図る）